

未来へつなぐ地域の宝

霞ヶ浦の帆引網漁

2025.7.6(日)

AM9:50~PM12:30 開場 AM9:30



場所：クラフトシビックホール土浦 小ホール

定員：280名(当日先着順)

参加料：無料



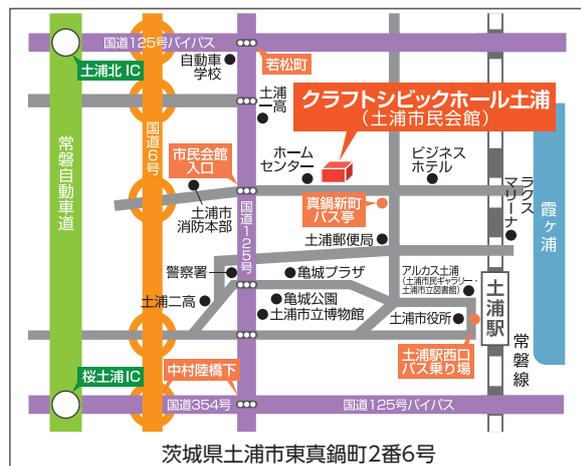
主催 「霞ヶ浦の帆引網漁の技術」に係る映像上映会及びシンポジウム実行委員会・(一財)自治総合センター
問い合わせ先 事務局(土浦市教育委員会 文化振興課)
TEL 029-826-1111 (内線 5120)

写真上段：帆桁に帆を結びつける様子
写真中段左から：風を読む漁師・帆引網漁の風景(かすみがうら市志戸崎沖合)・シラウオ
写真下段左から：水縄を引いて帆を広げる様子・網をあげる様子
ロゴマーク提供：若田部 哲

「未来へつなぐ地域の宝 霞ヶ浦の帆引網漁」

国選択無形民俗文化財「霞ヶ浦の帆引網漁の技術」について、総合調査の成果と記録映像をお披露目します。

日時 令和7年7月6日(日)
 午前9時50分～午後12時30分 (開場午前9時30分)
会場 クラフトシビックホール土浦 小ホール
定員 280名 (当日先着順)
参加費 無料
映像 「霞ヶ浦が育んだ奇跡の漁法
 ～生きた民俗技術を後世に伝えていくために～」
講師 作品解説：岩崎真也氏 (有茨城ビデオパック)
 徳丸 亞木氏 (筑波大学教授)



- バスをご利用の場合
 土浦駅 (JR常磐線)
 土浦駅西口④番バス乗り場から、土浦協同病院行きで真鍋新町バス停下車 徒歩10分
 つくば駅 (つくばエクスプレス TX)
 つくばセンター⑥番バス乗り場から、土浦駅西口行きで土浦駅西口バス停下車。土浦駅西口④番バス乗り場から、土浦協同病院行きで真鍋新町バス停下車 徒歩10分
- 自動車をご利用の場合 ※無料駐車場は数に限りがございます
 国道125号・354号「市民会館入口」交差点より霞ヶ浦方面へ
 常磐自動車道 土浦北IC (水戸ICから35分) から10分
 常磐自動車道 桜土浦IC (三郷ICから30分) から15分

霞ヶ浦の帆引網漁とは

霞ヶ浦の帆引網漁は、地元の漁師である折本良平によって、明治時代に発明されました。大きな一枚帆に風を受け、シラウオやワカサギを獲る漁法です。動力船の普及によって一度は姿を消しましたが、昭和46年に観光用の帆引き船として復活しました。

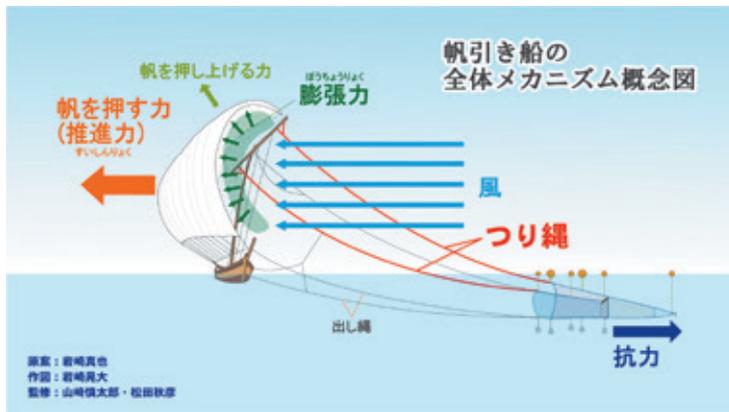
平成30年には、国選択無形民俗文化財に選択されました。民俗技術分野においては、県内初の選定です。



霞ヶ浦に浮かぶ帆引き船 (提供：霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会)

帆引網漁のメカニズム

平坦な台地に囲まれた霞ヶ浦の広い湖面を吹き渡る「平らな風」を帆に受け、船を横に流して網を引きます。「出し縄」「つり縄」など5本の縄で湖中の網を引く点が特徴的です。また、「ものぐさ縄」など複数の縄を巧みに操って船を操縦します。そのメカニズムを明らかにするための科学的な調査も行われました。



メカニズム概念図 (提供：有茨城ビデオパック)

技術を伝える人々

帆引網漁の技術は、風や地形を読む知識とともに、親から子、孫へと代々引き継がれてきました。

現在は土浦市、かすみがうら市、行方市、それぞれの保存会によって、帆引網漁の技術が継承されています。各市では毎年7月下旬から12月初旬にかけて、保存会の協力のもと観光帆引き船を操業しています。3市の保存会による地道な継承活動は、令和3年度にサントリー地域文化賞に選ばれるなど高い評価を受けています。

技術を支えるモノ

帆引網漁は当初、「サップ船」という小型の木造船が使用されましたが、のちに、舳先を持つ「ミヨシ船」へと改良されました。舳先を持つ船は風きりが良いだけでなく、網の間口を広げることができ、漁獲量が増えました。

また、八郎潟では地元の伝統的な和船が用いられていました。明治時代、帆引網漁の技術だけが霞ヶ浦から八郎潟へと伝播したことが注目されます。



網針の使い方を教える様子



出し縄の結の方を教える様子



帆を仕立てる様子



船の部材を作る様子

調査等において、学識経験者の皆様の外、土浦帆曳船保存会、霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会、行方市帆引き船保存会の皆様に多大なご協力をいただきました。